



## 務

土木學會誌 第十五卷第三號 昭和三年三月

### 土木學會定時總會議事概要

昭和四年一月十九日午後三時半より東京市麹町區有樂町一丁目一番地帝國鐵道協會に於て定時總會を開く。出席者會員，准員，學生員共百三十名。岡野會長議長席に着き開會を宣し丹治主事は昭和三年度事業報告を，村主事は同年度收支決算報告並貸借對照表を代讀し出席會員の承認を得たり。

該報告書及貸借對照表の全文下記の如し

### 昭和三年度土木學會事業報告

理 事	岡 野 昇
同	井 上 秀 二
同	中 川 吉 造

昭和三年度中事業の概要を左に報告す。

#### 一、會 合

昭和三年一月二十一日午後三時半東京市麹町區有樂町一丁目一番地生命保險協會に於て定時總會を開く出席會員百五名にして會長市瀬恭次郎君議長席に着き事業及決算報告を爲し終て市瀬會長の講演ありたり上記以外同年度中の會合は役員會十二回講演會三回編輯委員會十二回東京市内外高速鐵道調査特別委員會一回混凝土調査會幹事會五回用語調査會幹事會二回なり。

#### 二、役員改選及職員就任

定款第十一條に據り會長市瀬恭次郎君副會長那波光雄君常議員茂庭忠次郎君同大河戸宗治君同樺島正義君同物部長穗君退任に付前項定時總會に於て改選を行ひ當選したる役員の氏名左の如し。

會 長	岡 野 昇君
副會長	中 川 吉 造君
常議員	黑 河 内 四 郎君
同	牧 野 雅 樂 之 丞君
同	福 田 次 吉君
同	米 山 辰 夫君

同年同月二十五日規則第二十五條に據り職員の推薦を行ひ左の通就任せり。

主 事	丹 治 經 三君
同	村 幸 長君
編輯委員長	黒 河 内 四 郎君
同 委 員	菊 池 英 彦君
同	鈴 木 雅 次君
同	田 中 豊君
同	平 山 復 二 郎君
同	古 川 淳 三君
同	高 橋 甚 也君
同	三 浦 七 郎君

同年七月三十日編輯委員古川淳三君並同年九月二十九日同高橋甚也君辭任に付其の後任として會員山中良樹君並同田中寅男君就任せり。

### 三、調 査 事 項

同年九月混凝土調査會並用語調査會を設置し引續き調査審議中にして尙前年度中より調査中なりし東京市内外高速鐵道調査委員會は同年十二月其の調査を完了せり。

### 四、會 誌 發 行

昭和三年度中會誌第十四卷第一號より同第六號迄及會員名簿を發行せり。

### 五、前 會 長 の 薨 去

前會長市瀬恭次郎君は昭和三年八月十五日、同廣井勇君は同年十月一日、同吉村長策君は同年十一月二十日薨去せられたるに付何れも本會に於ては弔詞及花環を靈前に供へたり。

### 六、本 會 事 務 所 の 移 轉

昭和三年七月二十五日本會事務所を東京市麴町區八重洲町一丁目一番地に移轉せり。

### 七、登 記 事 項

昭和三年一月二十一日の定時總會に於ける理事の改選及資産の總額を金九萬七千四百九十九圓九十七錢と變更の件は同年二月三日に又本會事務所を東京市麴町區八重洲町一丁目一番地に移轉の件は同年七月二十七日何れも其の登記を了せり。

### 八、土 木 賞 牌 贈 呈

土木學會誌第十三卷第一號に掲載せる會員宮本武之輔君の「混凝土及鐵筋混凝土軸の扭力に関する實驗報告(獨文)」と題する論文に對し昭和二年度第一土木賞牌を贈呈せり。

### 九、視 察 旅 行

昭和三年五月十二日より同十五日に亘り富山縣下の發電工事其の他の視察旅行を爲し會員九十八名の參加ありたり。

## 十、關西支部事業の概要

本年度中關西支部に於ける會合は大會一回役員會八回幹事會十九回講演會一回なり又近畿地方及高松地方へ視察旅行を催したり。

## 十一、會 員 數

昭和三年度中の入會者は會員百三十五名（内准員より轉じたるもの九十五名）准員二百四十名（内學生員より轉じたるもの百十名）學生員五十八名贊助員二十一名にして合計四百五十四名退會者は會員五名准員百五十名學生員二名合計百五十七名死亡者は會員十一名准員三名贊助員一名合計十五名にして昭和三年十二月末日に於ける現在數は會員千百四十六名、准員千七百二十八名學生員百三十九名贊助員二十一名合計三千三十四名なり。

## 昭和三年度土木學會決算報告

理 事 岡 野 昇  
理 事 井 上 秀 二  
理 事 中 川 吉 造

## 收 支 計 算

## 收 入 の 部

科 目	金 額
會 費	37 062.05
會員會費	16 625.00
准員會費	19 245.00
學生員會費	1 192.05
利子及雜收入	3 439.64
預金利子	422.64
基金利子	2 375.23
雜 入	641.77
入 會 金	2 026.00
會員入會金	860.00
准員入會金	1 038.00
學生員入會金	128.00
會費一時納付金	320.00
震害調査書收入	10 752.84

廣告料收入	6 335.58
寄附金	1 000.00
合計	60 936.11
支出の部	
科 目	金 額
事務費	14 975.20
通信費	332.92
俸給諸給手當	6 993.00
事務室及會場費	3 070.57
消耗品費	200.60
諸印刷費	1 219.61
振替貯金料金	949.45
雜費	2 209.05
會誌費	18 056.41
會誌印刷費	15 279.04
速記費	65.00
翻譯費	75.00
製圖費	95.10
運送費	1 995.00
雜費	547.27
會費	700.00
圖書及備品費	794.20
震害調査書印刷費	8 904.56
臨時費	440.00
廣告諸費	2 934.50
關西支部交付金	1 207.26
關西支部貸金	315.50
混凝土調査會費	1 190.93
用語調査會費	629.44
基金に編入金	320.00
基金に返金	2 708.73
翌年度に繰越金	7 759.38
合計	60 936.11

工學會費 200 圓、英國工學大會負擔金第二回 500 圓。

會費一時納付金

370 圓 56 錢用語調査會費、809 圓 07 錢混凝土調査會費、6 579 圓 75 錢經常部

## 基 金 計 算

## 收 入 の 部

前年度繰越金	80 588.32	
古市 神野 兩博士還暦記念基金	17 094.12	
故白石博士記念基金	14 693.20	
故山崎博士記念基金	1 705.23	
廣井博士土木賞牌基金	468.31	
原 田 博 士 基 金	2 808.70	
廣井博士還暦記念基金	6 559.45	
小川博士還暦記念基金	1 076.52	
故富田博士記念基金	535.91	
故石黒博士記念基金	6 495.48	
故近藤虎五郎博士記念基金	3 996.50	
故中島博士記念基金	3 117.50	
故阪田貞明君記念基金	1 096.24	
故岡崎博士記念基金	1 755.52	
故太田圓三君記念基金	2 513.17	
基 金	16 672.47	本會積立金
基金に編入金	320.00	會費一時納付金
關西支部維持基金	22 000.00	
原田博士記念基金	200.00	
利子收入	3 616.39	
古市 神野 兩博士還暦記念基金利子	909.99	公債及貯金
故白石博士記念基金利子	807.20	〃
故山崎博士記念基金利子	86.01	〃
廣井博士土木賞牌基金利子	26.39	〃
原田博士記念基金利子	158.28	〃
廣井博士還暦記念基金利子	369.31	〃
小川博士還暦記念基金利子	52.40	貯金
故富田博士記念基金利子	26.20	〃
故石黒博士記念基金利子	369.31	公債及貯金
故近藤虎五郎博士記念基金利子	226.59	〃

故中島博士記念基金利子	157.20	貯金
故阪田貞明君記念基金利子	65.94	公債及貯金
故岡崎博士記念基金利子	105.53	〃
故太田圓三君記念基金利子	131.00	貯金
基金利子	125.04	公債及貯金
<b>合 計</b>	<b>106 724.71</b>	
<b>支 出 の 部</b>		
經常費に組入金	2 375.23	利子ノ三分ノ二但シ近藤博士分二分ノ
翌年度へ繰越金	104 349.48	本年度利子三分ノ一ヲ基金ニ編入セルモノ
古市 兩博士還曆記念基金 沖野	17 397.45	
故白石博士記念基金	14 962.26	
故山崎博士記念基金	1 733.89	
廣井博士土木賞牌基金	477.10	
原田博士記念基金	3 061.46	
廣井博士還曆記念基金	6 682.54	
小川博士還曆記念基金	1 093.98	
故富田博士記念基金	544.64	
故石黒博士記念基金	6 618.57	
故近藤虎五郎博士記念基金	4 107.81	此分利子二分ノ一基金編入
故中島博士記念基金	3 169.90	
故阪田貞明君記念基金	1 118.21	
故岡崎士博記念基金	1 790.69	
故太田圓三君記念基金	2 556.83	
關西支部維持基金	22 000.00	利子ナシ
基金	17 034.15	
<b>合 計</b>	<b>106 724.71</b>	
<b>繰 越 金 内 譯</b>		
翌年度へ繰越金	7 759.38	本年度殘金
各基金繰越金	104 349.48	
<b>合 計</b>	<b>112 108.86</b>	
内 譯		

有價證券	54 099.17	額面61.800圓貯金局及三菱銀行保管
當座預金	5 051.00	三菱銀行
定期預金	15 000.00	同
信託預金	22 000.00	安田信託
郵便貯金	5 330.27	
振替貯金	10 575.63	
現 金	52.79	

## 貸 借 對 照 表 (昭和三年十二月三十一日現在)

貸 方 (負債)		借 方 (資産)	
古市 兩博士還曆記念基金	17 397.45	圖書及備品	5 845.26
沖野 故白石博士記念基金	14 962.26	敷 金	520.00
故山崎博士記念基金	1 733.89	未 收 入 金	11 078.54
廣井博士土木賞牌基金	477.10	假 拂 金	100.00
原田博士記念基金	3 061.46	有 價 證 券	54 099.17
廣井博士還曆記念基金	6 682.54	當 座 預 金	5 051.00
小川博士還曆記念基金	1 093.98	定 期 預 金	15 000.00
故富田博士記念基金	544.64	信 託 預 金	22 000.00
故石黒博士記念基金	6 618.57	郵 便 貯 金	5 330.27
故近藤虎五郎博士記念基金	4 107.81	振 替 貯 金	10 575.63
故中島博士記念基金	3 169.90	現 金	52.79
故阪田貞明君記念基金	1 118.21		
故岡崎博士記念基金	1 790.69		
故太田圓三君記念基金	2 556.83		
關西支部維持基金	22 000.00		
基 金	17 034.15		
翌年度へ繰越金	25 303.18		
合 計	129 652.66	合 計	129 652.66

## 財 産 目 録

貸借對照表資産の部と同一に付省略す。

次に未納會費缺損處分を諮り出席會員の承認を得たり。次で役員の改選を行ひ議長の指命せる開票立會人樺島正義君、山中良樹君、藏重長男君は投票四百五十三通の開票を爲した

り。當選役員及會長十票，副會長十八票，常議員五十九票以上の得點者は下記の如し。

會 長	
四百十二票 (當選)	田 邊 遯 郎君
十一票	中 川 吉 造君
十票	那 波 光 雄君
副 會 長	
三百八十七票 (當選)	八 田 嘉 明君
十八票	眞 島 健三郎君
常 議 員	
百五十票 (當選)	眞 田 秀 吉君
百四十四票 (同)	前 川 貫 一君
百四十四票 (同)	近 新 三 郎君
百十七票 (同)	久保田 敬 一君
百 票	橋 本 敬 之君
五十九票	阿 部 美樹志君

上記役員改選開票中に會長講演あり，右終了後中川副會長より開票の結果を發表し午後六時閉會せり。續いて御大禮關係活動寫眞の謹寫に移り，午後六時四十分より晚餐會を催す。出席者八十二名にして盛會裡に午後八時散會せり。

○昭和四年一月十九日大阪市北區堂島中町中央電氣俱樂部に於て本會關西部支部第二回大會を開く，出席者二百五十六名。後藤幹事長より昭和三年度關西支部會務報告あり續いて支部長及商議員半數の選舉を行ひ下記の諸君當選せり。

支 部 長	直 木 倫 太 郎君
商 議 員	高 西 敬 義君
同	島 重 治君
同	平 野 正 雄君
同	清 水 颯君
同	川 口 愛 太 郎君
同	永 井 專 三君

上記役員選舉開票中に會員大井上前雄君の「關門トンネル」及工學博士武田五一君の「橋梁の外観」と題する講演あり，終りて同所に於て懇親會を開催せり。

○同年同月二十二日役員會を開く，田邊會長，中川，八田兩副會長古川，岡野兩前會長，黒河内，近，眞田，福田，前川の各常議員及丹治，村兩主事出席，田邊會長議長席に着き下



記事項を決議せり。

△當年度中に限り編輯委員一名を増員することとし其の増員に對しては會員山口昇君を推薦し其の他の職員は全部引續き前任者を推薦すること。

△昭和四年度關西支部長として會員直木倫太郎君の就任の件は之を承認すること。

其の他會務に關する事項

- 同年二月四日編輯委員會を開き黒河内編輯委員長田中，山口兩委員菊池囑託出席會誌編輯上に關し協議を爲せり。
- 同年一月二十四日東京區裁判所に於て理事の改選及資産總額變更の登記を了せり。
- 同年同月十五日土木學會誌第十五卷第一號發行成規の手續を了し翌日各會員に配布せり。
- 准員石川主計君は「近藤」と改姓せられたり。

### 各種調査會記事

#### 混凝土調査會

- 昭和四年一月二十九日第七回混凝土調査會幹事會を開く，大河戸委員長永山幹事長平山，岡部，藤井の各幹事加藤，北村，石井の各囑託出席前回到引續き草案第二十三條及第二十四條に對し討議を爲せり。

#### 協議決定事項

△田中幹事の起草に係る設計に關する示方書草案脱稿したるに付之を印刷の上各委員に配布し意見を求むること。

- 同年二月十四日第八回混凝土調査會幹事會を開く，大河戸委員長永山幹事長平山，藤井，山中，中山，鈴木の各幹事牧野，物部，瓜生，内村の各委員北村，中川兩囑託出席，草案第二十五條乃至第三十條に對し討議を爲せり。

#### 用語調査會

- 昭和四年一月二十三日第四回用語調査會幹事會を開く中山委員長中川幹事長青木，藤井，萩原，原，石井，櫻部，菊池(英)，三浦，中桐，糠澤，佐藤，鯨島，田中，山口，菊池の各幹事那須委員中川囑託出席前會に引續き撰定用語表に依り調査すべき用語を決定するに當り各提案者より夫々説明を求め河川及下水道の兩部及調査に必要なる印刷物の調製に就て協議を爲せり。

- 同年二月十三日第五回用語調査會幹事會を開く，八田副會長，中川幹事長田中，中桐，河口，櫻部，藤井，萩原，青木，中原，糠澤，鯨島の各幹事北村，中川兩囑託出席前回到引續き撰定用語表中上水道，材料及施行の部に就て協議を爲せり。

- 昭和四年一月十六日以降二月十五日迄に於て入會を承認し名簿に登録したる者下記の如

し(○印は轉格者を示す)

會 員 ○砂治國良君

准 員 青山吟三郎君 原岡勳君 堀内眞次君

學生員 深谷克海君 田中幸二君

○昭和四年一月十六日以降二月十五日迄に於て寄贈又は交換を受けたる雜誌其の他下記の如し。

寄贈を受けたる分

内外工業時報 2 月號	1 冊	最新工業普及會
研究報告第 6 號	1 冊	製鐵所研究所
昭和二年度逓信省電氣試驗所事務報告	1 冊	逓信省電氣試驗所
ワット第 2 卷第 2 號	1 冊	ワット社
工業と社會第 31 卷第 2 號	1 冊	東京工業會
工學第 2 號	1 冊	東京工業社
工部學紀要第 18 冊第 1 號	1 冊	東京帝國大學
工業之大日本第 1 號	1 冊	工業之日本社
工事畫報第 2 號	1 冊	工事畫報社
セメント界彙報第 203 號及第 204 號	2 冊	セメント界彙報發行所
鐵道技術第 3 卷第 1 號	1 冊	鐵道技術社
電氣製鋼第 1 號	1 冊	電氣製鋼研究會
電氣工學第 18 卷第 1 號	1 冊	電氣工學社
土木建築材料商報第 316 號	1 冊	東洋建材商報社
土木建築資料通信第 168 號	1 冊	土木建築資料通信社
滿洲技術協會誌第 6 卷第 39 號	1 冊	滿洲技術協會
シビル第 8 卷第 2 號	1 冊	シビル社

交換の分

衛生工業協會誌第 3 卷第 1 號	1 冊	衛生工業協會
帝國鐵道協會々報第 30 卷 1 號	1 冊	帝國鐵道協會
機械學會誌第 140 號	1 冊	機械學會
建築雜誌第 517 號	1 冊	建築學會
工業要録第 5 卷第 1 號	1 冊	工業資料調查會
港灣第 7 卷第 2 號	1 冊	港灣協會
電氣學會雜誌第 486 號	1 冊	電氣學會

日本建築士第 4 卷第 1 號	1 冊	日 本 建 築 士 會
鐵と鋼第 1 號	1 冊	日 本 鐵 鋼 協 會
日本鑛業會誌第 525 號	1 冊	日 本 鑛 業 會
工政第 111 號	1 冊	工 政 會
工業化學雜誌第 32 編第 1 冊	1 冊	工 業 化 學 會
同上歐文	1 冊	同 上
早稻田建築學報第 6 號	1 冊	早稻田大學工學部建築課教室
造船協會雜纂第 82 號	1 冊	造 船 協 會
業務研究資料第 17 卷第 1 號	1 冊	鐵 道 省 官 房 研 究 所

## 雑誌閲覽に就ての會告

下記の雑誌は本會事務所に備付置候間御希望の向は下記時間内御隨意に御閲覽相成度候。

### 閲 覽 時 間

日曜日及祭日休，土曜日自午後一時至同四時，其他 自午後四時至同八時。

但し役員會，委員會等開催の日は御斷り致すこと有之哉も計られず候間豫め御承知置被下度候。

### 備 付 雜 誌

Engineering	工	政
Engineering News-Record	港	灣
Le Génie Civil	國 際 建 築 時	論
Railway Gazette	造 船 協 會 々	報
衛生工業協會誌	帝 國 鐵 道 協 會 々	報
機 械 學 會 誌	鐵 鋼 及	鋼
業務研究資料 (鐵道大臣官房研究所)	電 氣 學 會	誌
建 設	電 氣 製	鋼
建 築 雜 誌	土 木 建 築 雜	誌
工 學 部 紀 要 (東大, 京大, 九大)	日 立 評	論
工 學 報 告 (東北帝大)	名 古 屋 工 業 會 々	報
工 業 化 學 雜 誌	滿 洲 技 術 協 會	誌
工 事 畫 報	其 他 寄 贈 雜	誌

### 廣 告 料 (東京市京橋區築地上柳原町八番地 東京第一通信社取扱)

普通廣告 一同一頁 40 圓 一回半頁 25 圓

指定廣告	裏表紙三面對向 及廣告初頁	一同一頁 60 圓
	裏表紙三面	一同一頁 150 圓
	色アート	一同一頁 75 圓

- 指定廣告は凡て一箇年繼續申込のものに限り取扱ふものとす
- 會員自身の廣告に對しては總て上記料金の一割引とす
- 同一廣告の連續掲載申込に對しては半箇年分五分引，一箇年分一割引とす
- 廣告に寫眞版又は木版等を挿入する場合は之に要する實費を別に申受くるものとす

# コンクリート調査會第一回報告書

## ○標準記號に對する投票の結果報告

會誌第十四卷第五號（昭和三年十月）に於て鐵筋コンクリートの計算に用ふる記號を會員より投票を求めましたが總計 107 人（内會員 31 人准員 76 人）の投票が集りました。未だ本調査會に於ては此の結果に基き協議を進める迄に至つて居りませんが差當り投票の結果だけを報告して置きます。

	英 米 式		組 合 せ 式		獨 逸 式		會員より提出せるもの			
	記號	投票數	記號	投票數	記號	投票數	記號	投票數	記號	投票數
コンクリート弾性係數	$E_c$		88		$E_b$	18	$E$	1		
鐵筋の弾性係數	$E_s$		89		$E_e$	18				
鐵筋の受ける張力の總和	$T$		89		$Z$	18				
コンクリートの受ける壓力の總和	$C$		89		$D$	18				
剪力の全量	$V$	60	$Q$ (又 は $V$ )	18	$Q$	23	$S$	6		
コンクリートに生ずる線維應壓力	$f_c$	52	$\sigma_c$	37	$\sigma_b$	18				
抗張鐵筋に生ずる應壓力	$f_s$	52	$\sigma_s$	37	$\sigma_e$	18				
中立軸に於ける應剪力	$v$	53	$\tau_o$		54					
粘着應力	$u$	52	$\tau_1$		51		$a$	1	$\tau_a$	3
丁桁の腹部の幅	$b'$	43	$b_o$		63		$b$	1		
丁桁突縁の深さ	$t$		89		$d$	18				
桁の有効深さ	$d$		86		$h$	21				
抗壓線維より中立軸に至る距離	$kd$	45	$x$		61		$y_c$	1		
抵抗隅方の腕長	$jd$	45	$z$		62					
全應壓力線より中立軸までの距離	$(kd-z)$	41	$y$		66					
抗張鐵筋の斷面積	$A$	35	$A_s$	54	$F_e$	18				
鐵筋總數の横斷面周長	$\Sigma_o$	51	$\mu$		55		$U$	1		
鋼比	$p$		86		$\mu$	20	$F_\mu$	1		

上表は投票を求めた各記號に對する投票數でありますがこの結果から見ますと大體に於て英米式が多數でありまして組合式が之に次ぎ獨逸式が最少でありました。

## 寄稿に関する注意事項

- (1) 御寄稿は成るべく本會の原稿用紙を用ひ横書きとすること、原稿用紙は御請求次第送附す。
- (2) 御寄稿は止むを得ざる場合の外は成るべく本會の原稿用紙 150 枚（本會誌 50 頁）程度とされたし、若し前記頁數を超過する場合は適宜其の程度に縮少を御願ひすることもあるべし。
- (3) 假名は平假名とし、數字はなるべくアラビヤ文字を用ひられたし。
- (4) 歐字は特に明瞭に認むること。  
n と u, u と v, r と v, a と α, r と γ  
其の他頭字と小字とを判然たらしむる事。
- (5) 原稿は凡て本文冒頭に内容梗概を添附し表題及内容梗概の英譯を併記せられたし。
- (6) 附圖附表に就ては次の各項に御注意ありたし。

- (イ) 圖面は其の儘縮寫し得る様にトレーシング・ペーパー、オイル・ペーパー、トレーシング・クロス等とす。
- (ロ) 凡て墨色を用ひインキ類或は彩色を施さざる事。
- (ハ) 方眼紙は青野のものを用ひ（黄色、赤色の紙は使用せざる事）縦横線を必要とする部分には豫め墨線にて之を描き置かれたし。
- (ニ) 圖表中の文字、數字は特に大きく肉太に書し縮寫したる後明瞭たらしむる事。
- (ホ) 圖表類は製版の都合上可なり汚損するものと豫め御含み下されたし。

- (7) 寫眞は特に明瞭たるものを送られたし。
- (8) 講演、論說報告の各欄に掲載の分には抜刷 20 部を寄稿者に贈呈するものとし、尙寄稿者の希望に依り實費にて御要求に應ずる事あるべし。

算式其の他の記し方大體標準。

- (1) 本文、文字間に算式を挿入する場合には次の如く記すこと。 $\frac{a}{b}$  と書き  $\frac{a}{b}$  を避けること。 $(a+b)/(c+d)$  と書き  $\frac{a+b}{c+d}$  を避けること。
- (2) 獨立したる列に算式を記す場合は次の如く記すこと。 $\frac{1}{3}x$  と書き  $\frac{x}{3}$  を避けること。 $\frac{1}{2}(a+b)$  と書き  $\frac{a+b}{2}$  を避けること。 $\frac{a}{b+c/d}$  と書き  $\frac{a}{b+\frac{c}{d}}$  を避けること。
- (3) 千以上の數字は 53 247 000 の如く 3 つ單位に間隔をあけること。
- (4) 名數は次の如く記し括弧の中の様に書くことを避けること。

83.4 尺（八丈三尺四寸）， 7 吋（七吋）， 35 錢（三十五錢）， 13.56 圓（十三圓五十六錢）， 1~4 時（一乃至四時間）， 88 326 噸（八萬八千三百二十六噸）， 1929 年 1 月 1 日（千九百二十九年一月一日）。

## 新入會者にして既刊會誌希望者に告ぐ

本會々誌は新入會者には入會の月より以降發行に係るものより配付致すべくに付其の以前の會誌御希望の場合是一部に付下記金額振替口座東京一六八二八番に拂込用紙通信欄に其旨記入請求せられたし

### 殘 部 内 譯

第五卷一號二號	一部金 壹 圓
第六卷六號	同 金 壹 圓
第七卷二號三號四號	同 金 壹圓五拾錢
第八卷一號	同 金 貳 圓
第九卷一號二號三號五號六號	同 金 貳 圓
第十卷二號三號四號五號六號	同 金 貳 圓
第十一卷二號	同 金 貳 圓
第十二卷三號	同 金 貳圓五拾錢
第十二卷二號五號六號	同 金 貳 圓
第十三卷二號三號六號	同 金 貳 圓
第十四卷一號二號三號四號五號六號	同 金 貳 圓
第十五卷一號二號	同 金 壹 圓
東京市内外交通に関する調査書	同 金 參 圓
大阪市内外高速度鐵道調査會報告書	同 金 壹 圓
土木學會誌索引	同 金 五 拾 錢
震害調査報告書 (一、二、三)	同 金 拾 六 圓

### 本會會員轉居又は旅行の場合の注意

會員の宿所の不明なるときは會誌の配付を始め其他通信上に差支候に付御轉居の際は至急明細に御通知相成度又御旅行等にて御不在となるも會費支拂には差支なき様御配慮相成たし

### 會 費 納 付 に 付 注 意

本會々費は下記の通りにして本會より發する振替集金に對し是非御支拂願度事若し此の集金書へ十五日間中三回の取立金支拂なき場合は最寄郵便局に就き本會振替口座東京一六八二八番に(拂込用紙通信欄に會費たる事を記入の事)御拂込相成度尙會費一時納付の御豫定又は其他の都合に依り支拂なき場合は直に御通知相煩度

朝鮮滿洲の一部及び青島等振替貯金を取扱はざる地に居住せらるゝ會員は納期の翌月末頃迄集金を受けざるときは爲替其他の方法に依り直ちに御送金相成たし

會員種格	會費年額	自一月至四月	自五月至八月	自九月至十二月
		第一期分二月徴收	第二期分六月徴收	第三期分十月徴收
會 員	金 拾 八 圓	金 六 圓	金 六 圓	金 六 圓
准 員	金 拾 貳 圓	金 四 圓	金 四 圓	金 四 圓
學 生 員	金 七 圓 五 拾 錢	金 貳 圓 五 名 錢	金 貳 圓 五 拾 錢	金 貳 圓 五 拾 錢

新に入會したるものは月割計算とし入會の翌月集金を發す

### 會 費 未 納 に 付 注 意

會費は從來年額を第一期第二期第三期に分割し毎年二月六月十月に振替貯金郵便として取立方を郵便局に依託の處往々集金郵便に對して故なく支拂を拒絶し尙他の方法に依りても送金なき者あれ共斯くては會費滞納者として遺憾ながら規則第十三條第一項に依り遂に會誌の配付を停止せらるゝに至るべく又本會に於ても未納金督促の手數一通ならず故に今後右様のことなき様特に御留意の上集金郵便に御拂込相成たし

### 會 誌 未 着 の 場 合 の 注 意

會誌は毎年二月四月六月八月十月十二月(印刷又は原稿等の都合に依り翌月上旬配付の事あり)に發行し漏なく配付すべくに付翌月未着の場合には一應本會に御照會相成たし從來往々發行後數ヶ月經過して照會せらるゝ向あるも斯くては殘部皆無となり遺憾ながら配付不可能のことあるべきに付御留意相成たし